

新年明けましておめでとうございます。今年も「皮膚科の臨床」を宜しく願いいたします。
年始の挨拶といえば、ここ 1, 2 年、年賀状じまいのお知らせを頂戴することが増えてきました。最初は終活の一環とされていた年賀状じまいですが、最近では若い人にも広がっているようです。郵便局のホームページ*でも、年賀状じまいを扱っています。そこには、年賀状じまいの文例なども書かれていますが、年賀状がもたらす人と人とのつながりや、季節の挨拶の大切さなど、年賀状の良さも強調されていて、郵便局としては年賀状じまいを受け入れつつも、年賀状を続けてほしい意図が読み取れます。

これまでは年末になると、年賀状を印刷して宛名を書き（最近は印刷したラベルを貼付している）、できるだけ一言加筆していました。コロナ前は夜の会が多かったので、時間がなくて年末までかかり、大みそかに投函することもありました。年が明けても年賀状との格闘は続きます。正月は配達される年賀状を受け取り、皆様の近況報告を楽しみつつ、出していない年賀状を確認して、お礼状を書きます。正月三が日を過ぎてから届くものもあるので、しばらく年賀状を気にする日々が続きます。松の内が明けて、ようやく年賀状から解放され、年賀状のお年玉抽選で当たり葉書を確認して年賀状シーズンが終わります。

忙しい若い世代の人たちが、年賀状にかけるエネルギーを他に振り分けるのは、理にかなっています。フェイスブックや X (旧ツイッター)、インスタグラムなどの SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス) で近況を報告し、個人的なやり取りは E-mail やラインなどを用いれば簡単にできます。年賀状じまいには、紙資源の無駄をなくすという目的もあり、最近の御挨拶状には、環境に配慮して年賀状を控えるという文言をよく拝見します。切手代や葉書代の経費節約という意味もあると思われます。

元日に赤いバイクに乗って出発する郵便局の配達員の姿を元日のニュースで見たことがあります。元日からのお勤は大変です。年賀状をやめても、郵便局員の正月休みに役立つかどうかはわかりませんが、働き方改革の名目くらいにはなりそうです。

とはいえ、こんなことを書いている私自身は、まだ年賀状を出しています。もうそろそろ年賀を納めて、年賀状じまいをすべきかもしれません。

*https://print.shop.post.japanpost.jp/nenga/feature/article_100 (2024 年 12 月 10 日閲覧)

(林 伸和)

— 顧 問 —

大原 國章 大塚 藤男

— 編集委員 —

土田 哲也 五十嵐敦之 相馬 良直 林 伸和 佐伯 秀久

「皮膚科の臨床」第 67 巻 第 1 号 1 月号

2025 年 1 月 1 日発行 (毎月 1 回 1 日発行)

定価 3,300 円 (本体 3,000 円 + 税 10%)

年間購読料金

定価 50,160 円 (本体 45,600 円 + 税 10%)

[年間 13 冊 (臨時増刊号、増大号を含む) の誌代]

[年間予約購読者に限り送料無料]

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

TEL 03(3811) 7165 [編集室直通]

TEL 03(3811) 7184 [営業部直通]

FAX 03(3813) 0288

ホームページ www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005

広告申込先 (株)文京メディカル TEL 03(3817)8036

- ・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権 (送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構 (TEL: 03-5244-5088, FAX: 03-5244-5089, E-mail: info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。